



麦類赤かび病の防除について

茨城県農業研究所の「農研速報」<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/noken/sokuho/sokuho.html>によると麦の生育がかなり早まっています。今後の気象にもよりますが、**出穂期が早まることが予想されますので、赤かび病の防除適期を逃さないように、今後の情報に注意して下さい。**

1 赤かび病の発病条件と薬剤による防除適期

赤かび病は、出穂期以降に気温が高く、降雨が続くと発病してきます。麦類の開花期から10日間くらいが最も感染しやすい時期で、小麦では開花始期～開花期（出穂期7～10日後頃）、六条大麦では開花を確認した時期（出穂期3日後頃）、二条大麦では穂から葯が出ているの確認した時期（出穂期12～14日後頃）が1回目薬剤防除の適期です。

2 各種麦の生育状況と防除薬剤

＜生育状況＞ 下記を参考に、現地圃場では、麦の生育をよく観察して下さい。

表1 農業研究所(水戸市、龍ヶ崎市)における麦類の生育状況 (農業研究所発表の「農研速報」より)

麦種	品 種	調査地点	播種期	生育ステージ	対平年遅速
六条大麦	カシマゴール	水戸市	11月6日	節間伸長期	11日早い
		龍ヶ崎市	11月9日	節間伸長期	9日早い
	カシマムギ	水戸市	11月6日	茎立期	9日早い
		龍ヶ崎市	11月9日	節間伸長期	6日早い
小麦	さとのそら	水戸市	11月6日	節間伸長開始期～茎立期	11日早い
			11月20日	幼穂形成始期～幼穂形成期	2日早い
		龍ヶ崎市	11月9日	節間伸長期	3日早い
			11月21日	茎立期	3日早い

注)、水戸市は3月4日、龍ヶ崎市は3月7日現在の生育状況。

＜防除薬剤＞

各薬剤は、麦種（小麦、二条・六条大麦の別）や散布方法（無人ヘリコプター、少量散布装置、動力噴霧器など）により希釈倍数や収穫前日数、使用回数などが異なる場合がありますので、散布の際には注意してください。

表2 小麦または六条・二条大麦 赤かび病の主な防除薬剤 (令和6年3月18日現在)

麦種	小麦		六条・二条大麦		分類
	希釈倍数	使用時期 - 使用回数	希釈倍数	使用時期 - 使用回数	
トップジンM 水和剤	1,000～1,500倍 (少量散布) 250倍	収穫14日前-3回以内 (出穂期以降は2回以内)	1,000～1500倍	収穫30日前-3回以内 (出穂期以降は1回)	1
トップジンM ゾル	1,000～1,500倍 (無人航空機) 8倍	収穫14日前-3回以内 (出穂期以降は2回以内)	1,500倍 (無人航空機) 8倍	収穫14日前-3回以内 (出穂期以降は1回) 収穫21日前-3回以内 (出穂期以降は1回)	
ストロビー フロアブル	2,000～3,000倍 (少量散布) 500倍	収穫14日前-3回以内	2,000～3,000倍	収穫14日前-3回以内	11
チルト乳剤25	1,000～2,000倍 (無人航空機) 8倍	収穫3日前-3回以内 収穫7日前-3回以内	1,000～2,000倍 (無人航空機) 8倍	収穫21日前-1回	3
シルバキュア フロアブル	2,000倍 (少量散布) 500倍 (無人航空機) 16倍	収穫7日前-2回以内	2,000倍 (無人航空機) 16倍	収穫14日前-2回以内	3
ワークアップ フロアブル	2,000～3,000倍 (少量散布) 500～750倍 (無人航空機) 10～24倍	収穫7日前-3回以内	2,000～3,000倍 (少量散布) 500～750倍 (無人航空機) 10～24倍	収穫7日前-3回以内	3

注1) (少量散布) は、専用の少量散布用ノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を使用して、25ℓ/10aで散布します。また、(無人航空機) は、無人ヘリコプターまたはドローンを用いた散布に限定されます。

注2) 分類欄には、FRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらき ホームページでもご覧になれます。